

新春特別号③ (第 25 回例会分)

2021.1.20



国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク Holger Knaack

国際ロータリー第2530地区ガバナー 石黒 秀司

福島南ロータリークラブ 会長 松崎 弘昭

標語「後から来る者の種火となって共に熱く燃えよう」

例会会場連絡先/クーラクーリアンテサンパレス TEL 024-523-3811 毎週水曜日 12:30~

◆会長挨拶 松崎 弘昭 会長



ここ最近、曇天の空から使命を終えた花びらのように白い使者が舞ってくる日が多くなっているようです。時に、風もなく、そんなに頻りにではなく、通り縫りの遊び人のように、他愛もなく地表に消えて行く様に何故か倦さを感じます。本来なら今日はポールハリス追悼例会の予定でした。残念ながら憎き新型コロナのお蔭で休会となってしまいました。さて、一般的に、いろいろなことに囚われたり、思い込み易いのが人間であり、一度思い込んでしまうと中々そこから抜け出せなくなるのもまた人間のものであります。

翻って、私たちのロータリーはどうでしょうか。ロータリーは素晴らしいものだと思います。しかし、もしかすると、一般の方から見たら、何か少し変わって見えているのかも知れません。だって考えてみてください。毎週水曜日の12時ごろになると、何処からともなくぞろぞろと集まってきて、12時30分の鐘の合図、その響きとともに不思議な世界に誘われる。そして、皆で歌を歌い、4つの言葉を唱える。ある時などは、皆で手を繋いで輪になって歌うのです。客観的に見れば、それは、少し不思議な光景に見えるのかもしれませんが。また、時として、金持ちの暇潰し、あるいは、自己満足集団に見られていることもあるようです。

そのようなことを考えていると、私達ロータリアンは、その長い歴史を学び、変えてはいけないものと、時代に合わせて変えていかなければならないものをしっかりと見据えたうえで常に変革をしていかなければならないと思うのです。この変革については、今、未来計画委員会において検討しておりますので期待を申し上げます。

ポールハリスが、ロータリーの長い歴史の1ページ目を作り、それから、時代とともにいろいろな人が知恵を出して様々な変化を成し遂げてきました。突然、今のロータリーがあるわけではなく、歴史の積み重ねで今があるのです。

私もまだまだ勉強不足ですが、ロータリーがよく分からないという方は、是非、ロータリーの歩んできた歴史を勉強してみてください。如何でしょうか。

松崎会長のエッセイ <優しい福島銘菓>

今日、一人暮らしの親戚のおばあさん(96歳)の訪問入浴をお願いしているサービス会社から私の携帯に連絡が入った。聞けば三年前からのサービス料金が支払われていないという。つまり私の口座からの引き落とし手続きを取っていたつもりだったが、そうではなかったらしい。こちらでも確認すれば分かることだし、向こうも決算で分かりそうなものだが、どっちもどっちという他ない。早速、自宅に来て頂いて話をする事になったが、話しには社長さんが直々に来てくれた。よく聞くと積もりに積もった未払金は11万511円になっているという。事業としての対価は当然支払わなければならない。そう思いその全額を支払おうとしたとき、その社長さんは、私の会社が一方的に悪かったのだから5万円で許してくださいというのだ。人間の心理とは面白いもので、こちらにも原因があるのに、低姿勢で謝られると、つい「5万円だなんて、そんな訳にはいきません。全額支払わせてください」と言ってしまったのだ。心の奥底では「失敗した、何か豪勢なものでも食べたかな」と悪魔の囁きが聞こえたのだが、結局、端数の511円だけ値引きしていただいて支払うことになった。考えてみれば、払うのか払わないのか、或いは、減額を求めめるのか、求めないのか。その決断をする。そして全額払うと決めたら、出費の結果は決まっているのだから、何も言わずニコニコと感謝の気持ちで支払うのがいい。そうすると不思議なもので気持ちがいいし、全てが好転してくるような気がする。そうだと、もしかすると、全額お支払いしたことで恩義を感じた社長さんは、私が何年か先に入浴サービスを受けることになった時、より良いサービスしてくれるかも知れない.....いやいや、そんなはずはないか、だって、社長さんは私よりかなり年上だもの。何れにしても、素直で甘い対応になったのは、お詫びとして持って来られた福島銘菓「福島夜曲」のせいだったのかも知れない。お茶のお供として美味しく頂くことにしよう。 おわり



■会員増強委員会 林 克重 委員長

ロータリーの価値観を大切にしたい。

会員増強は福島南 RC の永遠の課題ですが、皆様もよく理解しているように増やすことを目標にしてクラブの内容を重視しなければ、例会会員数を増やすことができてまず退会に結びついてしまうことは明白です。

ロータリークラブは大人の集まりです。様々なことを経験し会社や組織のリーダーの方です。創業、後継、転勤など、言い換えれば百戦錬磨を乗り越えてきた方々です。(これから乗り越えるべきことは沢山ありますが・・・)

そして、様々なご縁があり福島南ロータリークラブに入会されました。感謝です。

ロータリークラブの究極の目標は、多様な職業を持つ人々が集まり、アイデアを交わし、生涯にわたる友情を培うことのできる場を作り、人が本来生まれながらに持っている目には見えない精神、他人に役立つという心を発掘し、育てて行く事なのです。

人生の目的を考えると、人は生まれて死んで行くだけでは意味がない。

少しでも 世の中を良くしなければならぬ。なぜなら、人間は社会的動物であり、孤立しては幸福になれないからです。人から喜ばれ、人から親しまれる。そこに人は幸福を感じることで。

以上のようなことを福島南ロータリークラブで体験できれば、入会したい方が訪れると確信しています。

身近な方でこの方とお会いの方を推薦いただけますようお願いいたします。



■親睦活動委員会 安斎 紀之 委員長

仕合わせ到来を願って!

昨年、当委員会が所管する新入会員歓迎会と家族クリスマス忘年会は、新型コロナの影響で禁酒での例会にて代替しました。

感染防止上酒席はご法度、見えない強敵のウイルスに翻弄され、消化不良、欲求不満が増幅していませんか。

これから予定している4月の家族観覧会や6月の新旧委員会歓送迎会も、感染の収束状況次第ということになります。

懇親会、例会では話ができなかった仲間と親睦を深める絶好の機会ですが、いまは我慢を強いられています。

「縦の糸はあなた横の糸は私、会うべき糸に出会えることを人は仕合わせと呼びます」

これは結婚披露宴で人気の中島みゆき「糸」の歌詞です。会うべき糸(あなたと私)の出会いの場は

ロータリーの懇親会。

会員の皆様全員に早く仕合わせが訪れるよう願ってやみません。

追伸：12月のクリスマス例会余興での下手くそな「糸」のピアノ演奏、ご容赦ください。



■菊地 和宏 幹事

「笑うと痛みは...」

日曜の早朝に電話が入りました。

「首が痛くて動かないんです」

急患として、朝一で診ることにしました。

「首の他に、まぶたも開きにくく、耳鳴りもするし、手もしびれるんです」

40歳女性、Aさんです。

お薬手帳を見せて頂くと、沢山の薬を常用し、

不眠、胃炎、皮膚炎、冷え症、そして、自律神経失調症と、たくさんの病名が!



家族構成を聞いたとたん、急に顔色が変わり、一瞬言葉が詰まりました。

「今、3人です。以前はもう一人いたのですが、...

昨年、交通事故で、高校生の娘を亡くしまして、...

相手の加害者は、ウソをついていたのです、...

それ以来、体調が優れず、ずっと薬に頼っていたというのです。

同時に、恨み辛みで自分自身のコントロールができずにいたようです。

治療を受け持つこちらも、一瞬迷いましたが、ある賭けに出ました。



その患者さんには、あるお坊さんから聞いた話をしました。

「お葬式のお経の話です。お坊さんは、旅立つ仏様とそれを送る遺族や参列者にお経の中で、唯一同じ言葉をかけているのだそうです。全てはあきらめないと、...

あきらめることが、けじめであり、明日からまた普通の生活に戻るためには、

旅立つ仏様も、送る側も諦める事が最も大事なのだということです。

「では、加害者のことはどう考えればいいのですか?」

「やはり、あきらめることだと思います。加害者を何年恨んでも、旅立った人は帰ってはきません。

辛い苦しいと思いつくことで、嫌な思いをするのは誰ですか?」

「私です」

「誰も好んで加害者になる人はいないと思います。難しいとは思いますが、

許すことだと思います。どこかで、許す、...それができなければ、しょうがないと、

けじめをつける事だと思います」

「なるほど、...」

「お経のように、“しょうがない、しょうがない”を繰り返すのです。

さあ一緒に口ずさみましょう!しょうがない!しょうがない!しょうがない!」

私は指揮者のように、両手で大きくコントラクトを振りました。

すると、Aさん、...ブーツと吹き出して、一瞬で笑顔になりました。



「ところで、Aさん、どこが痛むんでしたっけ?」

笑うと、痛みは一瞬で楽になるよう、...デ・ス・ヨ(ハハ)!

